

京の ほんまもん 講座 2018 京都からの福分け

「京のほんまもん講座2018～京都からの福分け」は、京都アカデミアフォーラムin丸の内に加盟する大学が連携を図り、大学教員と京都の文化人がコラボレーションを通じて、京都の伝統文化・芸能をお伝えするセミナーです。関東では普段聞くことのできない京都のほんまものの講師陣が京都の日常の営みをご紹介します。京都の伝統文化・芸能に関心を示していただく機会につながることを期待いたします。

同志社女子大学主催

源氏物語『葵巻』と斎王代装束から読み解く葵祭

2018年 9月 7日 金 13:30-15:30

参加申し込み締め切り：9月4日(火)

第一部

講演：吉海 直人
演題：『源氏物語』の葵祭を読む
(同志社女子大学 表象文化学部 日本語日本文学科教授)

第二部

斎王代衣裳(十二単)など平安装束の着付け実演
解説：井筒 興兵衛
(風俗博物館館長、一般財団法人宗教文化研究所代表理事、
㈱Izutsu Mother代表取締役社長、及び㈱井筒代表取締役社長)

京都アカデミアフォーラムin丸の内
新丸の内ビルディング10F



「京都アカデミアフォーラム」in丸の内とは

京都外国語大学、京都光華女子大学、京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学、京都女子大学、京都精華大学、京都橘大学、京都美術工芸大学、同志社女子大学、京都大学が連携し、京都の文化・芸術・科学について「学術面から情報発信する場」として広く一般に認知されることを目指し、京都の魅力や価値を高めることを目的とした場の総称です。

問い合わせ先

同志社女子大学広報課 (渡邊)

Tel : 0774-65-8631

Mail : koho-t@dwc.doshisha.ac.jp

参加申し込みURL

<http://www.kyoto-af.jp/honmamon2018/>



続きは裏面へ



■ 源氏物語『葵巻』と斎王代装束から読み解く葵祭

京都三大祭りの一つ「葵祭」について文学的観点と平安装束から、源氏物語『葵巻』をか
らませながら読み解いていきます。

当日は、株式会社井筒様のご協力により、葵祭第56代斎王代がモデルとなって、斎王代の
衣装である十二単などの平安装束の着付けの実演をしていただきます。今回は、平安衣裳
を鑑賞するだけでなく、触れることもできる貴重な機会となっております。

源氏物語にも登場する京の伝統行事「葵祭」の雰囲気、京都より東京へお届けいたしま
す。

■ 日時 2018年9月7日（金） 13:30～15:30（受付13:00）

■ 場所 京都アカデミアフォーラムin丸の内 会議室C・D（東京都千代田区丸の内1-5-1新丸の内ビルディング10階）

■ 定員 80名

■ 費用 2,000円（当日、受付にてお支払いいただきます）



■ スケジュール 13:00～13:30 受付

13:30～14:30 第1部
講演 『源氏物語』の葵祭を読む



吉海 直人

長崎県生れ。國學院大學大学院文学研究科博士課程後期修了。
博士（文学）。1989年、日学の開設と同時に同志社女子大学専
任講師として赴任。1999年より学芸学部教授、現在は表象文化
学部教授。専門は平安朝文学、特に『源氏物語』と百人一首に
ついて研究している。著書に『「垣間見」る源氏物語』（笠間
書院）、『源氏物語の「後朝の別れ」を読む』（笠間書院）、
『百人一首の正体』（角川文庫）などがある。

14:30～15:30 第2部
平安装束着付け実演



井筒 興兵衛

風俗博物館館長。一般財団法人宗教文化研究所代表理事。(株)
Izutsu Mother代表取締役社長、及び(株)井筒代表取締役社長。
(株)井筒の家業である宗教用の法衣、装束の製作販売における学
問的研究機関として昭和26年宗教文化研究所を設立。宗教に関
する服飾、祭祀儀礼等を研究対象とし、特に服飾に関して古代
以来の歴史的研究を進展させ、それを一般に発表する場として
昭和49年に風俗博物館を開館。『源氏物語』を切り口に、平安
時代の京都が国風化の進んだ時代の中でも地球上の様々な文化
を取り入れて変容し混在している風俗であったという具現化展
示に取り組んでいる。

■ 今後の予定（京都市立芸術大学のご案内）

時期	日付曜日	主催	定員	タイトル	講演者
11月		京都市立芸術大学		調整中	